

Nihongo Network News

2000.5.26発行

No. 26

TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークは、ボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワーク（連絡協議会）として、情報交換や活動の活性化を図ることを目的に、1993年12月に結成されました。TNVNの会員はそれぞれの地域で日本語教室活動を通じて、言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援しています。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター気付 ☎03-3235-1171

第7回 TNVN総会が 開催されました



TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワークの第7回総会が2000年4月22日午後2時から東京ボランティア・市民活動センター10階会議室で開催されました。

この日は、中田代表が事情により欠席でしたが、梶村副代表の挨拶、引き続き来賓として東京ボランティア・市民活動センターの中村加代子様からご挨拶があり、TNVNでは地道な活動がなされ、ネットワーク組織が充実し、活動に係わる人たちの幅広さ（男性、若い人を含んで）、ニュースレターの質の高さなど、今後のTNVN活動に対する期待が述べられました。 TNVNの正会員(団体会

員)72のうち38団体の出席（委任状を含む）で、総会の議長に外口（以下敬称略）議事録署名人に山縣を選出し、総会の議事が進められました。

まず、1999年度活動報告・会計報告がなされ、活動報告

では「ニュースレター発行」「事務局活動」「運営委員会」「情報交換会」「入門講習会」「日本語学習支援研究会」「ボランティア日本語教室ガイド2000」等の活動状況を報告。会計報告では、収入の部では会員会費と入門講習会参加費が中心で、支出の部

はニュースレターの発行および発送費が総支出の2/3を占め、情報発信に重要な役割を担っていることが示されました。

続いて、監査報告のあとに2000年度の役員選出が行われ、下記の方々がTNVNの新役員に決定。2000年度の活動計画・予算案の説明があり、これから一年の活動が承認されました。

また、今回はTNVN規約の一部改定の提案があり、その説明と承認がされました。そして、最後にスタッフの紹介があり、閉会後は懇親会で参加者の交流と情報交換が行われました。

- 代表：中田 紀子（八幡山日本語教室・寺子屋kidsセンター／多摩市）
 副代表：大原 徹夫（まちだ日本語ボランティアネット／町田市）
 梶村 勝利（早稲田奉仕園日本語ボランティアの会／新宿区）
 事務局長：甲斐 武子（ともだち／足立区）
 会計：山縣 みつる（青山日本語クラブ／港区）
 大久保 澄子（弥生日本語の会／文京区）
 監査：藤田 義雄（OCNet／大田区）

交 差 点

ネットワーク 情報交換会レポート

第12回ネットワーク情報交換会

日時：2000年3月17日(金) 18:00～20:00

会場：東京ボランティア・市民活動センター 会議室

学習者からの相談への対応

ボランティア日本語教室は日本語学習だけの場ではなく、生活ケアのための場でもあります。そのため、学習者からさまざまな相談等がもちこまれ、対応に苦慮した経験を持つ人も多いのではないのでしょうか。今回は、江戸川ユニオン等で活躍している宇田川正宏氏を事例報告者にお迎えし、学習者からの相談への対応について熱のこもった質疑応答が行われました。

宇田川氏は89年頃から寺子屋式で日本語教室を始め、91年からはオーバーステイ外国人にも学習権利は有るとの立場から社会教育に強い関心を持ってボランティア活動をしています。

●日本語教室と「生活支援」の視点から

「いつでも誰でも一人でも」を原則に、不正規滞在者・超過滞在者にも学習権があり、ボランティア日本語教室に「人別改め」は無用としたい、とのこと。

日本語教室に対して参加者から、

- ①ボランティアが日本語学習を支援できるのは中級以下の場合で、上級者は無理ではないか。
- ②ボランティア教室用の教材は少なく、特に初心者用に適したものがなく支援が難しい。学習支援にはテクニックも必要である。
- ③日本語学校とは違うのだから生活に必要なことまで学習支援する必要があるのか。
- ④日本語を熱心に学ぶ人には、日本に対する情熱を感じる。
- ⑤近年は「オーバーステイでも学習権がある」という考えが浸透してきた。
- ⑥一方、日本語教室でボランティアを

することを日本語教育の実習の場と考える人や外国人と話したい人、自分のことを話したい人など、学習者にとって迷惑なボランティアもいる。

●最近のトピックスから

APFSの滞在特別許可取得の取り組み（滞日おおむね10年十中学生の子ども）2月18日施行改訂入管法（密入国者十他人名義パスポート入国者には新法適用）等が話題となった。

2月18日の入管法改正でさまざまなデマが流れたが、ビザなし滞在者への学習支援をしている日本語ボランティアが影響を受ける心配は全くない。

●「医職住」から教育・福祉文化へ

滞日の長期化・定住化によって、寄せられる相談内容は多岐に及び、日本人と変わらなくなった。結婚・出産・離婚・就園・就学・福祉・医療・社会保障などさまざままで、「よってたかって」相談に乗り、手に負えない問題は専門家に橋渡しをすることが大切です。

●参加者の事例から

【事例1】仕事やアパートの保証人を頼まれることもあるが、自分は仕事を持たず収入がないので断った。

【事例2】フィリピンの少女（15才）が日本の公立中学へ入学できなかった。この場合、学習の意志があれば公立中学に

入学出来るはずで、本人がどういう希望を持っているかが一番大切である。

【事例3】14才で小学3年のクラスに入ったタイ人の例は、学校に馴染めず、義父ともうまく行かず、不幸だが助けることができなかった。このようなケースの場合、基本的には後追いは避けるしかない。相談の対応は一人でなく複数の人ですべき。

【事例4】マレーシア人女性は自分から「私はオーバーステイです」と言って来た。「日本語教室にオーバーステイの人がいると、強制送還の際ボランティアに費用負担が来る」という人がいて、そのことで動揺して辞めてしまったボランティアもいる。

【事例5】雇用者にとってはより安く使えるオーバーステイの外国人が重宝される。日本の労働法は立派であるが、現状ではオーバーステイの外国人には適用されない。

【事例6】ビザなし滞在でも長く働き会社にとって重要な人は、ビザを取得するチャンスがあるのか？

（ビザの取得は不可能）

（参考文献）「Q&A外国人相談ハンドブック」ぎょうせい
「移住労働者生活マニュアル」スリーエーネットワーク

次回のネットワーク情報交換会のご案内

◆日時／2000年5月19日（金）18:00～20:00

◆会場／東京ボランティア・市民活動センター 会議室

◆テーマ／小学校における日本語学習支援について

5月のネットワーク情報交換会は都合により中止となりました。今回は、小学校などで外国人児童の日本語支援をする際の問題点などについて話し合ってみたく思います。多くの方々のご参加をお待ちしています。



ボランティア日本語教室での学習は、日本語学校と違って学習者のニーズもさまざま。そのため既存のテキストや教授法通りにはいかないことも多く、学習者に合わせた工夫も必要です。

ここでは、日本語学習者を支援するときに、役立った教材、理解を早めたアイデア、上達を助けるコツなど、ボランティアの経験から生まれた工夫やアイデアをご提案します。

ボ ラ ン テ ィ ア か ら の 提 案

経験から生まれた 日本語学習のヒント

吉田 静代 / 協力会員 (北区)

日本語ボランティアを始めてから十余年、ホームステイを受け入れたり、海外までロングステイで日本語を教えに行ったりと、いろいろな出会いを楽しんできました。

私が初めて日本語を教えたのは、台湾から研修に来ていた3人の若い女性でした。最初は「こんにちは」も話せなかったこの3人が、一年間に週一回2時間の日本語学習を一回も休まずに来てくれたこと。そのことが、私が今日まで日本語ボランティアを続けていることの原点になっています。

教科書での学習の前に

決められた教科書を使って学習する場合でも、教科書に入る前に、学習者にこれまでに覚えた日本語を使って毎日の生活について話してもらいます。そして次に、手作りのカードを使ってのゲーム。まず、カードを広げ、それを声をだして読みながら拾い、そのカードを手渡しながらの買い物ゲーム。私もメンバーになってロールプレーをします。

学習後には宿題を

教科書での学習が終わったら、次回までの宿題。これは、毎回、駅名・食べ

物・文房具・生活用品などのカテゴリーをひとつ選んで、いくつかの言葉を宿題カードに書きこんで来ることです。今回は学習が始まる前にそのカードを互いに交換し、まとめの宿題カードに記入。これを見ながら私が質問をして、新しい文型を教え、学習者の興味を引くよう工夫しています。

毎日ひとつずつの 文型をマスター

私の娘はある大きなプロジェクトの通訳をしていますが、いっしょに仕事をしている外国人が日本語教師から本格的に日本語を学んでいてもなかなか覚えられないのだそうです。そこで、仕事に必要な文型を作ってひとつのリズムで教えたところ、実際にその言葉を使って日本人に分かってもらえた喜びを同僚に話したそうです。こうして毎日一つずつでも文型を覚えれば、残りの2年間の滞在の間に700の文型をマスターできる、と娘は励ましたそうです。

いっしょに楽しめば 上達も早い

先日、ある会のお花見に誘われて行ったところ、交換留学生として日本に来て

いる学生が二人来ていました。そのうちの台湾の学生は日本語能力試験1級でしたが、もう一人のアメリカ人学生の日本語能力はほとんどゼロ。若者同士で話しているうち、彼らは「あっち向いてホイ」のゲームに加わり、数分たつうちに顔を見ないで聞いていると日本人と変わらない発音になっているのを耳にして驚きました。ゲームや関心の高いものなど、いっしょに楽しめるものは、こんなにも早く無意識のうちに同化するものだと再認識しました。

学習者の自国の話題を

この一年、私自身は、中国人・韓国人・イタリア人などに日本語を教えてきました。日本語レベルは中級なので、それぞれの国に関する日本の新聞記事を素材として、文化・習慣・国情などを話しています。これは、私が以前、ニュージーランドでロングステイをしていた時に、地下鉄サリン事件が現地でも大きく報道され、ステイ先の家族と事件のことや死刑のことなど話したことがヒントになっています。外国にいて自分の国のことを話題にすることは、たとえ言語が十分でなくても身につく言葉なるのではないのでしょうか。この体験から、なるべく相手の関心のある話題で日本語を教えるよう心がけています。このために、毎日の新聞は一面から目を通し、必要と思われる記事は切り抜きます。世界の情勢に関心を持ち、話題が豊富になったのも、学習者との出会いがあるおかげです。

これからも、日本語を「教える」のではなく、自分の資質向上の相手をしてくれる学習者に感謝しつつ、日本語ボランティアを続けていきます。最後に、家族からの一言「家のなかでもボランティアをして〜」。



「ワイ、ワイ、がや、がや。
いつでも、だれでも」

(財)目黒区国際交流協会「日本語会話サロン」(目黒区)

目黒区国際交流協会(通称MIFA)は、目黒区における国際交流を図るため1992年に設立以来、区内在住外国人と目黒区民が気軽に交流する場所としてさまざまなプログラムを提供してきました。そのなかで、勉強した日本語を使いながら日本人ともっと話したいという外国人からの要望が高まり、日本語ボランティアが会話の練習相手をする「日本語会話サロン」を1997年7月にスタートさせました。以来、駐在員配偶者、留学生、研究員、会社員といった異なる履歴と目標を持った人々がボランティアからマンツーマンで日本語学習の支援を受けています。目黒区内には従来から、日本語指導を行う教室が数カ所ありますが、そこで学ぶ外国人が日本語会話サロンを実践の場として活用するケースも見受けられます。

活動するボランティアは約40名。外国人に日本語を教えたい、日本の文化、外国の文化について話したいと希望するボランティアの見学者が絶えません。MIFAでは毎年、区内在住在勤の方を対象に日本語ボランティア養成講座を開講、その修了生が活動の担い手となりますが、加えて、毎月1回、サロンのなかでも勉強会を開いています。これまでは外部より日本語教師を招いてきましたが、5月からはボランティアが持ち回りで課題別学習をする自主勉強会へと形を変えます。サロンの運営面でも自主的な動きが見られ、今後の発展が楽しみです。



はじめまして。どうぞよろしく!

芝久保日本語サークル(田無市)

明石 佐和子

つい先日のこと、台湾大地震のニュースを知り、急いで台湾からの学生のケータイに電話を入れ



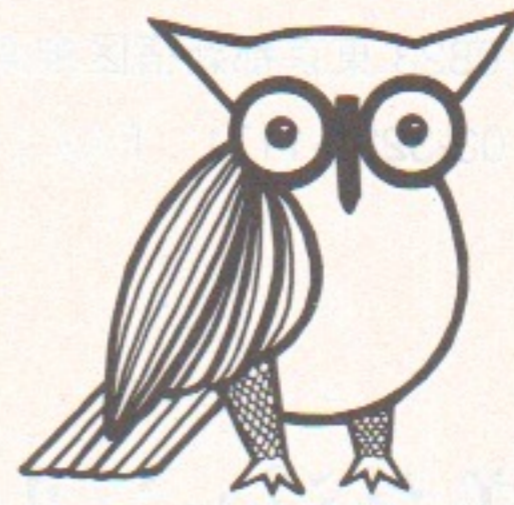
ました。「自分の家族は大丈夫」との返事を聞き、ほっと一安心…。六年前に英会話サークルから発足した日本語サークルのスタッフも最近は諸外国からの学習者と接するうちに、海外の出来事にも敏感になりました。今月は風船の地球儀を購入、ティータイムに「ワタシハココカラ」「ワタシノクニハココ」と地球儀上の小さな一点を指し、みな同じ地球に住んでいる一体感をほのぼのと味わいました。

若いママさん学習者も田無ボランティアセンターからの保育ボランティアさんに子どもを託し、安心して学習に励んでいます。例年の英会話日本語サークルの合同新年会には、保育ボランティアさんもお招待。そして6年間に知り合った田無在住の学習者たちにも声をかけると、お料理好きの彼女たちはお国自慢の料理を持ち寄り、私たちスタッフも腕をふるい、色とりどりのご馳走が並びます。三々五々食事を楽しみながら、お料理から家族の話へと花が咲き、続くビンゴゲームにプレゼント交換、最後は一年間の運営費を捻出するバザーも大人気です。

毎週土曜日午後1時から芝久保地区会館の2階和室を教室に、親切で熱心なのが取り柄の10人だけの自主サークルです。現在、スタッフ募集中です。

いまこども

朴宝美／韓国（ともだち）



それから主人がいない時に、したのむすめがねつがありました。そして、ひとりでこどもをつれてびょういんにいきました。その時、おしやさんの話がわからないから、とてもかなしかったです。

こどものためにも日本語を一生けんめいべんきょうしたいと思います。

うえのむすめがはじめてようちえんにいくとき、こどもは日本語ができないからともだちとなかよくあそべるかな？ きゅうしょくをよくたべるかな？ おしっこをしたいときにせんせいにおはなしできるかな？ と、しんぱいでした。

でも私はこのしんぱいなことをせんせいにはなせませんでした。

いまはこどもがようちえんによくてきおうして、ともだちとなかよくあそびます。

私は日本人と結婚してペルーから来ました。生活に困らないように主人がかんたんな会話ができるように協力をして教えてくれました。しかしはじめて病院に行った時に、手続きの書類が漢字だらけなので読み書きができなかったことを残念に思いました。私には漢字がとても難しく、覚える自信が少しもありませんでした。けれども日本でずっと生活するためには、会話だけでなく読み書きの練習もとても必要だと感じました。

初めてひらがなで書いてある本をひらいてみると、しぜんに読もうとしていましたが、それを見ていた私の主人は「あなたはできるよ」とはげまされました。その時私の気持ちがたかぶって嬉しい涙がぼろぼろでできました。そして日本語がもっと覚えるためにボランティアセンターに通いました。ある日、作文を書かなければならなかった時、たいへん難しく思いました。そしてもっと勉強しなければいけないと思った

ので、ボランティアの方の紹介で夜間中学校に入ることができました。

夜間中学校では日本人、かんこく人、中国人などといっしょに勉強しています。みんなは漢字がとくいなので、私はうらやましく思います。今まで日本語の勉強の中で一番難しいことは、漢字の読み方です。とくに文語体と口語体なんです。1つの漢字を覚えても、他の漢字と組み合わせるとぜんぜん違う読み方になります。たとえば「部」はくん読みでもおん読みでも「へ」とは書いていないのに、「屋」をつけるとへやと読みます。それがよく分からなくてさいしょは「ぶや」と読んでしまいました。

今は日本の国語の難しさが分かるようになりました。もし私と同じ国の人たちが日本語の勉強をしているなら、私と同じように感じているでしょう。日本の漢字の文化は難しいですが、がんばっていつか上手になりたいと思っています。

勉強について

アウグステイナ石川／ペルー（文花中学夜間部）

「これどういう意味？」という声が私の耳に飛び込んできた。ある日の日本語教室でのできごと。声の主は日本人と結婚しているペルー人主婦。副教材に子ども用の物語を使っていて、引っかかったのだ。場面は門番が主人に「ご主人様」と呼びかけているところで、自分の知っている主人の意味と違うので聞いたのだった。学習支援者の説明を聞くと、「そんな意味があったの。私はこの言葉をもう使わない」と支援者に言った。

私はびっくりした。それまで何の疑問も持たずに「主人」「ご主人」という言葉を学習者に教えていたのだから。

以来、この言葉が気になり、「追っかけ」を試してみた。実に多くの人がこの言葉を論じている。なかには「『主人』ということば」という

題の本まである。それらを読みながら、次のようなことを考えた。

- 1.言葉には奥行きのあるものがある。ペルー人の一言を聞けなかったら、そのことに気付かないままでもいたかもしれない。
- 2.言葉を教えることが文化の押しつけになることがある。
- 3.「主人」という言葉には主従のイメージが、「妻」の方の用語の「家内」、「奥様」、「愚妻」には男女差別のイメージがある。抵抗感のありうる言葉について考えてみる必要がある。
- 4.「戦後強くなったのは靴下と女」と言われたことがある。女性が強くなったことは、私のような恐妻家でなくても、皆認めるであろう。言葉はこの事実の変化に追いついていない。

「主人」という言葉

床呂英一（まだだ日本語ボランティアネット）

東京ボランティア・市民活動センター

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ10F

TEL: 03-3235-1171 FAX: 03-3235-0050 ホームページ <http://www.tvac.or.jp/>

多様なジャンル・地域・活動形態の ボランティア・市民活動を総合的に支援

近年、ボランティア活動やNPOなどへの社会的な関心が一層高まり、メディア等で注目を集める機会も増えています。そんななか、さまざまなボランティア団体や市民活動団体、ボランティア活動に関心のある個人をサポートする活動を続けているのが、東京ボランティア・市民活動センターです。

今回は、TNVNも活動の基地としてお世話になっている東京ボランティア・市民活動センターについて、スタッフの佐藤新哉さんにお話をおうかがいしました。

【市民活動団体を、 幅広くサポート】

東京ボランティア・市民活動センターは、社会福祉法人東京都社会福祉協議会によって運営されているセンターで、1981年に「東京ボランティアセンター」として設立されました。以来、ボランティア活動にかかわる団体・個人をさまざまな形で支援してきましたが、1998年4月には新たなNPO法案の施行を契機に、現在の「東京ボランティア・市民活動センター」に名称を変更。従前以上にNPO（非営利団体）や市民活動団体に対して、幅の広い支援を目指して活動しています。

これは、市民活動団体＝NPOという捉え方で、社会性のある活動を市民が主体となって自分たち自身のやり方で活動してる団体（ボランティア団体も含む）をサポートしていこうという考え方です。「今までもボランティアグループということに限定せずNPOとも協働したり、支援したりしてきました。ボランティア団体だけという限定にはあまり意味がありませんから」と佐藤さん。こういった市民活動団体のなかには、有償スタッフをかかえている団体や収益事業を展開している団体も含まれるそうです。

さらに、1999年12月からは、それまで休館日だった日曜・祝日もオープンし（休館日は月曜日に変更）、開業時間も夜9時までと延長しました。これ

は、センターの利用者からの要望に応えたもので、平日の夜間や週末にしか活動できないという人たちも多いからです。この変更によって、私たち利用者にとってはより便利になりました。

【広域をカバーする 総合的センターとして機能】

都内にはそれぞれの地域にボランティアセンターがあり、地域との繋がりの中で地域に密着したボランティア活動を推進。こちらの東京ボランティア・市民活動センターは、地域を限定せず、広域で活動している団体の情態等をカバーし、広域的なセンターとしての役割を担ってきました。社会福祉だけではなく、あらゆる分野での活動やサービスについて情報提供や相談活動を行っています。

主な活動内容は、下記の通りです。

- ①情報・相談
ボランティア・市民活動に関する相談への対応や、資料・情報の提供。月刊情報誌「ネットワーク」の発行、ホームページでの情報発信。
- ②調査・研究
ボランティア・市民活動に関する各種の調査・研究。ボランティアセンター研究年報の発行。
- ③研修・訓練
ボランティア・市民活動団体に対する研修。ボランティアコーディネーターの研修。
- ④ネットワーク
ボランティア・市民活動団体や地域のボランティアセンターとの連携。ボランティア・市民活動団体の広域ネットワークへの支援。交流会「めっせ・TOKYO」の開催。
- ⑤普及・啓発
ボランティア・市民活動のためのキャンペーン実施。啓発資料等の作成。
- ⑥プロジェクト

地区ボランティアセンター事業、児童・生徒のボランティア活動普及事業、青年ボランティア活動推進事業、企業等のボランティア活動推進事業、シニアボランティア活動推進事業、災害ボランティア活動支援事業、市民学習推進事業、など。

⑦会場・機材の提供

ボランティア・市民活動団体への会議室・機材・資料等の貸し出し。

⑧活動への助成

ボランティア・市民活動団体に対する活動資金の助成。

⑨ボランティア保険

活動中の事故に備えたボランティア保険の受付。

【ボランティア新時代は、スタートしたばかり

NPO法の施行や、センターの開館曜日や時間の变化もあいまってセンターを利用する団体等の層も今まで以上に拡大し、センターとしての活動もますます活性化しています。なかでも、今後の活動としてとくに力を注いでいきたいのは、たとえば下記の分野だそうです。

◆ボランティア入門講座

ボランティア活動をしてみたいという人々が最初に訪れる窓口として、各種の入門講座等の充実。

◆市民学習プログラム

これまでも何回か実施してきている、英国における子どもたちや青少年の体験学習プログラムについての研究やワークショップ・講座等の実施、教材の開発・翻訳等。

◆シニアボランティアへの対応

とくにシニア層には、社会との関わりのなかで自分を生かしたいというニ-

ズが高い。これを、講座やプログラムの開発等によってより一層活動に結びつけていきたい。

現在では、市民活動団体も今までと比べると比較的簡単に法人格を持てる時代となり、ボランティアに関わるのは特別なことではなく普通のことと人々の意識も変化し、ボランティア活動も新しい段階に入ったようです。

「そのなかで、センターの目的や役割も変化してきていると思います。いかに活動をサポートし、活動する人々の層を拡大していくか。センターだけでできることは限られているので、効果的に支援していく方法を考えていきたい」と佐藤さん。国籍や年齢、障害の有無等あらゆる出自多様な人々が共生していく時代のなか、社会の状況が変わっても「人を助けたい、力になりたい」という気持ちには変わりはないはず。さまざまな人がいるなかで、みんながよりよい生活を送れるために自分たちなりに社会を変革する方法を考えていきたい、と意欲を語ってくださいました。



(資料提供/東京ボランティア・市民活動センター)



助数詞と漢字の音読み

「正しい日本語」とは何か

日本大学講師
福田 知行

前回は助数詞の規則を示しましたが、具体例を次に挙げます。

数字	音読み	～はい (h-)	～かい (k-)	～さい (s-)	～とう (t-)	～まい(その他)
3	さん	さん ばい	さん かい	さん さい	さん とう	さん まい
6	ろく	ろく	ろく	ろく さい	ろく とう	ろく まい
1	いち	いっ	いっ	いっ	いっ	いち
8	はち	はっ	はっ	はっ さい	はっ とう	はち まい
10	じゅう	じゅう	じゅう	じゅう	じゅう	じゅう

(注) 2・4・5・7・9の場合は発音の変化はありません。

まとめると次のようになります(前回の規則を別な形で表現したものです)。

(1) 数字の発音が代わる(促音化する)のは「1・6・8・10」だけ。

a. か行・は行で始まる助数詞の前の「6」: ろく→ろっ (促音化)

b. か行・さ行・た行・は行の助数詞の前の

①「1」: いち→いっ	}	(促音化)
②「8」: はち→はっ		
③「10」: じゅう→じゅう		

(2) 助数詞の発音が変わるのは「は行」だけ。

a. 「3」の後ろ: は行→ば行 (濁音化)

b. 「6」と「1・8・10」の後ろ: は行→ば行 (半濁音化)

ただし、1キロ(いちきろ)、1箱(ひとはこ)などはこの規則に当てはまりません。「キロ」は外来語であり、「ひと(つ)」は和語だからです。そのほかにも例外はありますが、助数詞の発音は上記の規則が基本になっていると言っていいでしょう。

前回も少し触れましたが、「学校」とか「学生」などの漢字の2字熟語の発音も上記の規則を少し修正すればすべて説明できます。つまり、「学校」の「学」は「がっ」という促音に

なるのに「学生」の「学」はなぜ促音にならないのかというと、上記の(1) a.を一般化して言えば、「く」で終わる音読みの漢字「く」の次に、か行(k-)で始まる音読み漢字が来ると「く」は促音「っ」になる、ということです。これを定式化したものが、以下の【1】です。

【1】 「く」+「k-」→「-っ+k-」
(例) がく+こう→がっこう

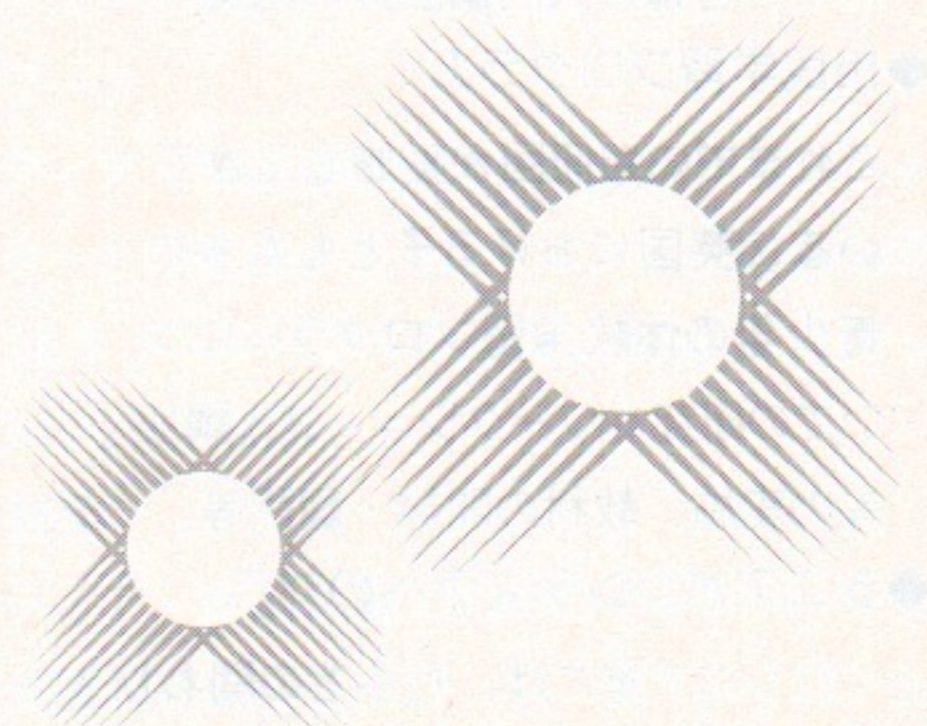
音読みの漢字熟語については、これ以外にも一般的な規則がありますが、今回はもう紙面が尽きてしまったので、次回に詳しく説明するつもりです。

ふじみの国際交流センターは、埼玉県富士見市・上福岡市・三芳町・大井町の2市2町を主たる活動地域とし、国際交流・協力・支援活動を展開しています。4月15日(土)には、NPO法人設立・彩の国国際貢献賞受賞を記念して、特別フォーラムと懇親パーティーが開催され、TNVNからも参加しました。

ふじみの国際交流センターは、1997年4月設立以来、日本語学習を支援しているボランティアや国際交流・国際協力に関心のある人たちと身近な地域に暮らす

外国人との交流と支援活動の拠点となってきましたが、さらに活動を充実・発展させるために、2000年1月18日NPO法人を設立。2月25日には彩の国国際貢献賞を受賞しました。この日のシンポジウム(地球市民会議)では「ふじみの国際交流センターの未来を語る」をテーマに熱のこもった討論がなされました。

ふじみの国際交流センターの 記念特別フォーラムが開催



日本の常識

Common sense in Japan

第9回 案内状の返信

— 往復はがきの返事の手書き方 —

結婚式やパーティーに招待された時などの案内状は、往復はがきで送られてきます。きちんと返事を書いて返送するのはもちろんですが、その場合いくつかのルールがあるので覚えておきましょう。

出席する場合でも欠席の場合でも、招待状の返事を送るのは礼儀です。

ここで気をつけたいのが、返信用はがきの印刷部分の書き換えです。

このような往復はがきには、特有の書き方があります。送られてくる招待状の書面は、先方からあなたに対しての敬語で書かれています。返送する時には、この敬語部分を訂正しなければなりません。

こうしたルールを知らずに送り返せば、相手に対して失礼にあたり、マナーを知らないと思われるので

注意しましょう。

最近、横書きの文書が増えてきましたが、往復はがきで送られてくる案内状は縦書きのことが多いです。

先の予定が立てられずすぐに返事をできない人は、先方に迷惑をかけるように、とりあえず電話でいつ頃になれば出欠席がはっきりわかるのかを連絡すること。もちろん出席の返事を出した後で急に行けなくなった時でも同じです。

また、葬儀などの弔事が重なった際には、付き合いの深かった方に出席

しますが、葬儀を優先させる人の方が多いようです。この場合、先方が落ち着いた頃、出席できなかったお詫びとお祝いを伝えるようにしましょう。

受け取ったら期日までに返信するよう、たいていは往復はがき側に「○月○日までに返信」というただし書きが記載されています。ギリギリに返送するのではなく、遅くても1週間以内には返事を出すようにしたいものです。

返信側

表面

111-2222

山田 花子 様

新宿区新宿三・四十五・六十七

先方の宛名には初めから「行」などの字が書かれてくる。これを2本線で消し、「様」に書き直す。

裏面～出席の場合～

御出席 させていただきます。

このたびはおめでとうございます。当日を楽しみにしております。

御住所 品川区品川六・七十八・八十九

御芳名 佐藤 太郎

「御欠席」を2本線で消し、「御出席」「御住所」の「御」の字と「御芳名」の「御芳」の尊敬語を2本線で消す。「出席」を丸で囲み、その下に「させていただきます」「おめでとうございます」など、何かひと言お祝いのメッセージを添える。

裏面～欠席の場合～

御欠席 させていただきます。

このたびはおめでとうございます。残念ですが欠席させていただきます。

御住所 品川区品川六・七十八・八十九

御芳名 佐藤 太郎

「御出席」を2本線で消し、「御欠席」「御住所」の「御」の字と「御芳名」の「御芳」などの尊敬語を2本線で消す。「欠席」を丸で囲み、出席できないお詫びの言葉と、同時になぜ行けないのか理由を簡単に書き添える。身内の病気や不幸など、縁起のよくない事柄の場合は、「都合により」「ほかに所用があり」という書き方が一般的。

御出席

結婚式の招待状だけに使える方法ですが、訂正する文字1字1字に赤ペンで「寿」と書いていくやり方もあります。

NETWORK INFORMATION

日本語ボランティア入門講習会

これから日本語ボランティアを始めたい方のための「日本語ボランティア入門講習会」は、日本語ボランティアに役立つ基礎知識の講座です。これまでに日本語ボランティアの経験がないという方は、活動のオリエンテーションとしてぜひ受講してください。どの回からでも受講可能で、全4回を受講された方には修了証をさしあげます。

◆日時

2000年6月9日(金) 午後2～4時
2000年6月23日(金) 午後6～8時
2000年7月14日(金) 午後2～4時 ※
2000年7月28日(金) 午後6～8時
2000年8月11日(金) 午後2～4時
2000年8月25日(金) 午後6～8時

◆テーマ

(6月) どのように日本語学習を支援しているか
(7月) 日本語ボランティアとは
(8月) 日本語再発見!

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター
(JR・地下鉄 飯田橋駅下車 徒歩1分)
※7月14日は、飯田橋セントラルプラザ
7F いきいきホールでの開講となります。

◆参加費

1回 600円 (TNVN会員は300円)

◆参加申込み

直接、会場へおこしてください。

日本語ボランティア相談

日本語ボランティア相談窓口では、日本語ボランティアに関するご相談・ご質問にTNVNのベテランスタッフがおこたえします。お気軽にご利用ください。

◆日時/毎週金曜日 午後2～7時

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター

◆電話でご確認の上、おこしてください。

TEL: 03-3235-1171 (呼出し)

TNVNの活動情報へ パソコンでアクセス!

インターネットのTNVN活動情報にアクセスして、日頃の活動にお役立てください。また、TNVNへの要望や意見などもお待ちしております。

<TNVNホームページ>

TNVNの講習会など活動情報や教室ガイ

ドの情報も掲載しています。

◆URL: <http://www.t3.rim.or.jp/tnvn/>

◆MAIL ID: tnvn@t3.rim.or.jp

※なお、上記のホームページにボランティア募集やイベント参加者募集などの情報掲載をご希望の方は、事務局までご連絡ください。

2000年度版「ボランティア 日本語教室ガイド」、作成中!

みなさまにアンケートやページ校正でご協力いただいている2000年度版「ボランティア日本語教室ガイド」は、現在、スタッフの手で編集作業がすすめられています。

近日中にボランティア日本語教室の最新の活動情報が掲載されたガイドが完成予定ですので、もうしばらくお待ちください。

新年度の会費納入に ご協力ください!

この4月より、TNVNの活動も新しい年度へ入りました。TNVN会員の皆様には新年度の年会費の納入をお願いいたします。

TNVNは日本語ボランティア団体の民間のネットワークとして、自治体等からの援助もなく、会員からの会費収入とボランティアスタッフの労力によって運営されています。その事情をご理解の上、すみやかな会費の納入にご協力ください。

TNVNへの入会を 希望する方は…

TNVNの会員として入会を希望される方は、まずTNVN事務局までTNVN活動・入会案内を請求してください。(活動・入会案内のみを希望する場合は送料として80円切手、ニュースレターと入会・活動案内の場合は90円切手を同封の上、郵便にてお申し込みください)

TNVNの会員は、日本語ボランティア活動をしている団体が正会員、日本語ボランティア活動に関心のある個人が協力会員となります。入会される場合は、申し込み用紙に必要事項を記入してTNVN事務局まで郵送またはFAXし、あわせて会費をお振り込みください。

会員の方には毎回TNVNニュースレター等を郵送するほか、TNVN主催の講習会等へ会員価格で参加できます。

◆会費/正会員 年会費 3,000円

協力会員 年会費 2,000円

◆会費払込み先

郵便振替口座番号 00100-1-719259

(通信欄に『年会費』と記入)

TNVN事務局の活動日は金曜日です

TNVN事務局の活動日が毎週金曜日になりました。毎週金曜日午後2～7時まで、東京ボランティア・市民活動センターで活動をしています。

TNVNへのご連絡・お問い合わせ等は、右記までなるべく郵便かFAXでお願いします。

〒162-0823 新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター 気付

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク

TEL: 03-3235-1171

(呼出し/金曜日午後のみ)

FAX: 03-3235-0050



国際フェスタ IN TAMA 2000

多摩市国際交流センター（TIC）では、地域の身近な国際活動を一堂に集めて紹介する「国際フェスタ」を開催します。これは、市民や団体と力を合わせ、気軽に国際交流・国際協力にふれることのできる一年に一度の国際イベントです。今年「ラテンアメリカへようこそ！ Vamos a Latinoamerica!」をテーマに、盛りだくさんの楽しい交流イベントが繰り広げられます。

◆日時

6月10日(土)、11日(日)
10:00～17:00

◆会場

パルテノン多摩 市民ギャラリー、特別展示室、小ホール

◆参加費/無料

◆内容

- ◎ラテンアメリカに焦点をあてたトークショー
- ◎ラテンアメリカ各国の歌や踊りのフォルクローレ
- ◎市民公募の写真、スケッチ展
- ◎TIC活動報告
- ◎国際交流関係団体の活動発表、報告ほか

◆問い合わせ

多摩市国際交流センター
TEL: 042-355-2118



国際青年の村、参加者募集

総務庁では、日本青年約150人と外国青年約150人(約13ヶ国)の合計約300人が、約1週間寝食を共にして各種の交流活動を行う「国際青年の村2000」に参加する日本人青年を募集しています。

◆開催期間

8月5日(土)～11日(金)

◆会場

宮崎県総合青年センター
(宮崎県宮崎市)

◆参加資格

概ね20～30才の日常英会話ができる日本人青年

◆参加費

無料
(参加に係わる交通費のみ自己負担)

◆問い合わせ

(社) 青少年育成国民会議
「国際青年の村」係
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 NYC内
TEL: 03-3460-4151

◆応募先

各都道府県の主管課(室)
または青少年団体へ

通訳ボランティア、募集

地球市民交流会は、東京都生活文化局国際部に登録された東京都防災語学ボランティアの有志により'97年に発足したボランティア団体です。国際交流の推進および支援を目的に、勉強会やイベント、セミナーなど(医療・法律を除く)非営利活動での通訳ボランティアを募集しています。同時にイベントボランティアも募集しています。

◆対応言語

英語、中国語、朝鮮語、フランス語ほか

◆申し込み・問い合わせ

TEL: 03-3895-4392

日本語ボランティア、募集!

TNVN会員団体の「フレンド日本語教室」では、日本語学習を支援するボランティアを募集しています。

◆活動時間

毎週日曜日 10:00～12:00

◆会場/ハッピーロード大山商店街

振興組合事務所3F会議室

東武東上線 大山駅より徒歩2分

◆参加資格

できるだけ長く継続していただける方

◆問い合わせ・申し込み

大野 京子 TEL/FAX: 03-3959-1996

第七回 外国人無料健康診断

◆日時/6月3日(土) 17:00～20:00

◆会場/立川中央公民館 視聴覚室2階

TEL: 042-524-2773

◆対象/外国人であれば誰でも年齢に関係なく受診できます

◆受診費用

無料(保険証は必要ありません)

◆検査項目

問診(健康状態について)、測定(身長・体重・血圧・視力)、歯科、胸部レントゲン、心電図、尿検査、血液検査(貧血・コレステロール等)

※Tシャツが便利です

※夕食は食べないで来てください

◆診断結果

6月17日(土)、24日(土) 18:30～21:00
立川中央公民館会議室(3階)にてお渡しします。

◆主催/びい〜・メディチン・たま

(在日外国人医療ボランティアの会)

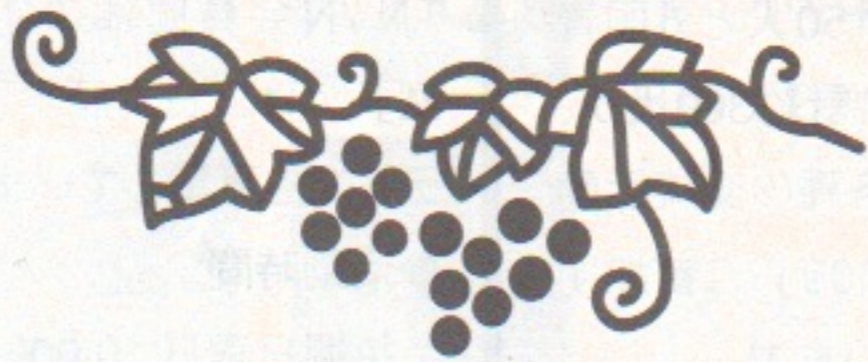
代表 田中穂積

(TEL/FAX: 0428-22-2762)

◆協賛/立川国際友好協会(TIFA)

※無料医療相談は原則として毎月第二・四土曜日 18:30～21:00に立川公民館会議室で行っています。

BULLETIN BOARD



4年ほど前に「TNVNのホームページを作りたいから手伝ってくれないか」と依頼されたことから、TNVNの活動に参加するようになりました。当時は、世の中に『インターネット』という言葉が普及し始める頃でした。私はインターネットに関してはメールの読み書きと特定のウェブページの閲覧程度にしか利用していませんでした。まして、どうやったら自分でウェブページを構築できるのかなど分かるはずもなく、当初は暗中模索でした。

HTMLというウェブページを記述するための言語を覚え、初のTNVNのページを完成させました。当時は、そのファイルを日本語教育関係者で組織された「日本語プラザ」のサイトに置かせていただいていたのですが、そのうちに自力でウェブサイトを開設する手順を知り、なんとかその実現にこぎつけることができました。

その後、約1年に1回のペースでリニューアルを重ね、現在に至るのですが、現在一番力を注いでいるところは日本語教室の検索エンジンです。以前は、一方的に教室のデータを表にまとめ、表示させていたのですが、実際に利用する場合は利用する人によってその検索条件が異なるので、インタラクティブ(双方向)にする必要性を感じ、実現させました。身近に詳しい人がいなかったのも、全て自力でした。

こうして試行錯誤を繰り返し、TNVNのウェブページは少しずつではありますが、発展を遂げています。しかしながら、作者の気付かないニーズがあるかも知れません。何かお気付きの点がある場合は、tnvn@t3.rim.or.jp までメールを頂ければ幸いです。

大滝 敦史
(TNVNホームページ担当)

SPECIAL THANKS

★東京ボランティア・市民活動センター様
快く取材に応じていただきました。

WELCOME!
新入会員のご紹介

- ◆正会員 (団体)
- あおぞら (港区)
- 早稲田奉仕園日本語サークル (新宿区)
- 日本語教授法研究会 (千代田区)
- 渋谷日本語グループ (渋谷区)
- 芝久保日本語サークル (田無市)
- ひまわり (墨田区)
- 府中国際交流サロン (府中市)
- グループWA (足立区)
- LET'S国際ボランティア交流会 (大田区)
- にほんご友好会 (練馬区)
- ◆協力会員 (個人)
- 久保美和子、熊谷智美、瀧澤正隆、杉山正吾、宮内永子 (敬称略)
- 2000年5月20日現在の会員数は、正会員72団体・協力会員79名・賛助会員10です。

地域の日本語ボランティア事情

足立区発

足立区の日本語ボランティアは、1985年に区の女性センターの養成講座によってスタートしました。養成はホップ、ステップ、ジャンプという段階をふんで日本語教授法やワークショップ等66時間をかけて行われ、講座修了者によって現在までに7教室が作られ、地域で個別に活動しています。

時間帯は月曜日午前2教室、午後2教室、夜間に1教室、水曜日午前2教室、それぞれ区の施設を会場に開催されています。

昼間の教室の学習者は主婦が多く、留学生や仕事で来日した人の奥さんのほかに、日本人と結婚した外国人女性も多くみられます。夜間の教室には、就労者や学生のほかに、最近は中学生も足を運ぶようになってきました。

各地区の教室は、区の女性センターの方

で用意してくれ、日本語教室活動のほかに、フォロー講座や連絡会も行われています。女性センターで行われる月曜日午前午後の教室では、会館の保育ボランティアが別室で学習者の子どもを預かっています。

足立区には90カ国、約1万8千人の外国人が在住しており、ボランティア日本語教室には隣県から来る学習者もいます。学習希望者が多いので、ボランティア数が不足している教室もいくつかあるようです。また、上記の7教室のほかに、個人や教会、外国人の子どもの学習をサポートしているボランティアグループや、区内にある海外技術者研修センター生を支援しているグループなどが活動しています。

甲斐 武子
(日本語ボランティア ともだち/足立区)

編集後記

●4月の総会を終えて、TNVNの活動もまた新しい年度を迎えました。新しい『ボランティア日本語教室ガイド』の発行も間近に迫り、今年もさまざまな活動スケジュールが控えています。TNVNの活動やニュースレターなどに対するご意見・ご要望などがありましたら、ぜひお寄せください。



発行人/中田 紀子
編集人/前田 恭子
レイアウト/鶴田 環恵